

福島大学 資源循環・廃棄物マネジメント研究所

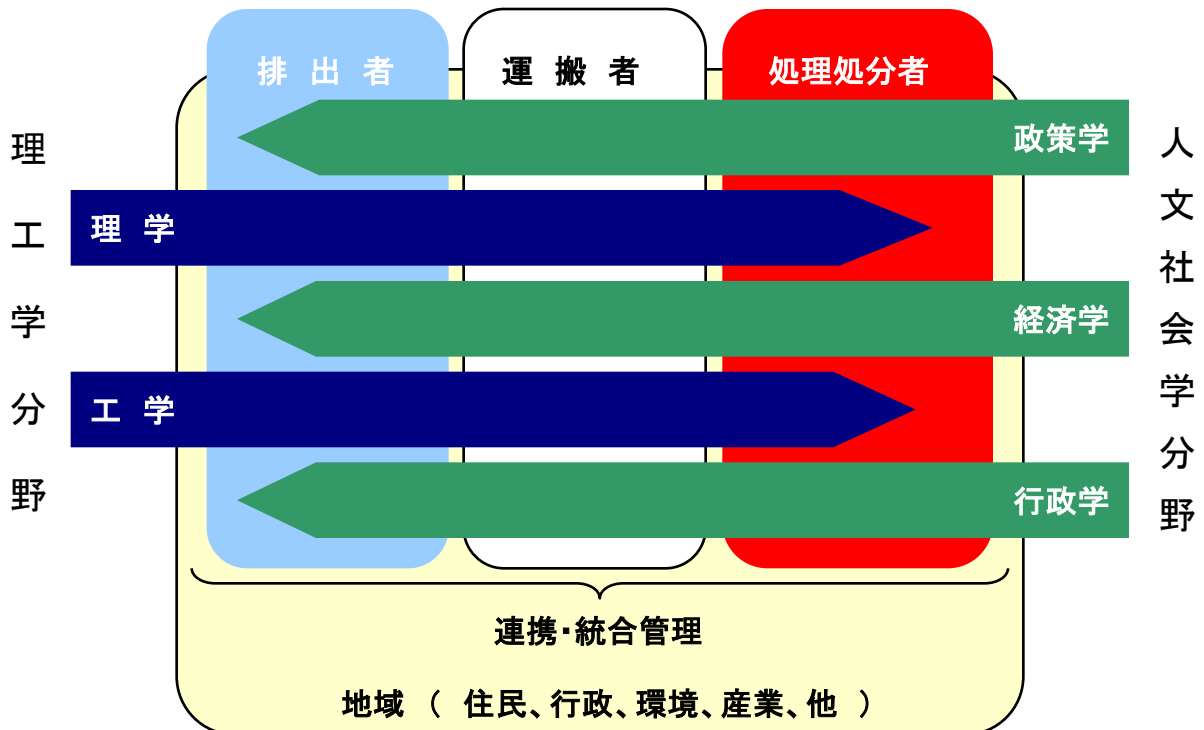
設立：平成20年12月24日

研究代表者：鈴木 浩 プロジェクト研究員8名、プロジェクト客員研究員5名

研究の対象は廃棄物全般、すなわち、一般廃棄物および産業廃棄物である。本研究の特色は、排出者、運搬者、処理処分者の観点で廃棄物にかかわる事業を区分し、それぞれが単独、あるいは、連携して、減量化、再使用、再生利用、資源化といった3R(Reduce+Reuse+Recycle)などを推進するための要素技術、経営情報管理、法制度を検討することにある。

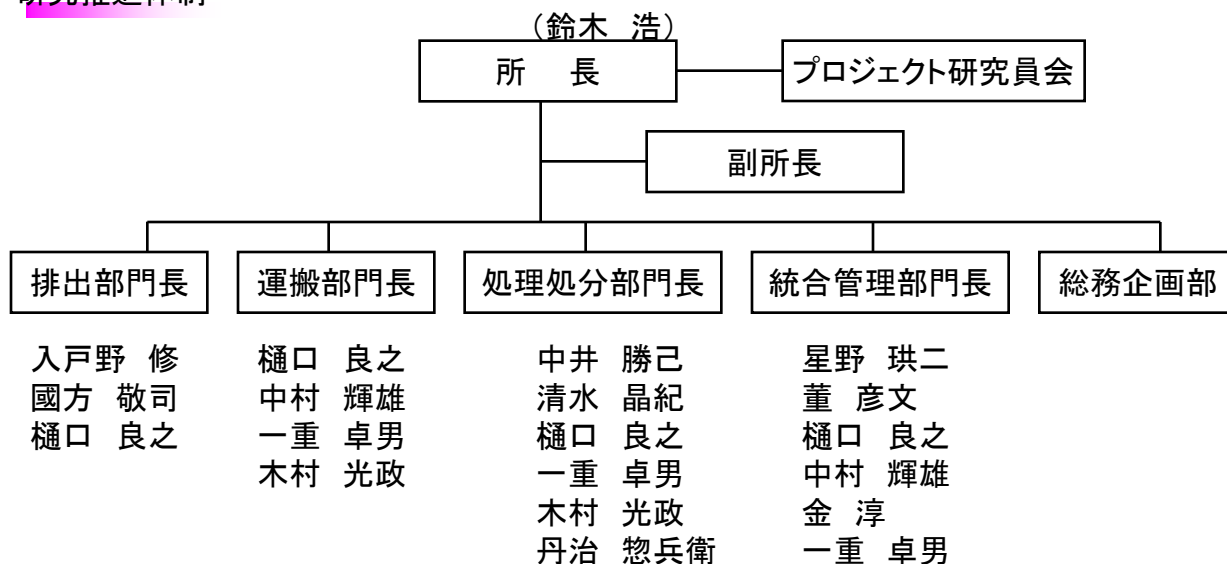
本研究の目的は、廃棄物管理において、地域住民と産業界が求めるニーズの達成、課題の解決と、研究者が持っているシーズの拡大深化、基礎研究の推進である。この目的を達成するために、より具体的に、排出、運搬、処理処分といった廃棄物の流れに沿った区分とそれらが連携、統合したものを、研究対象の中心としてとらえる。

また、理工学の研究分野に人文社会学の研究者が、人文社会学の研究分野に理工学の研究者が、それぞれ参画することで文理融合の長所を活かした研究推進体制を整えている。また、廃棄物の運搬、処理処分を行っている事業者、地域の廃棄物処理計画に携わる国内外の研究者と連携した研究推進体制となっている。これにより、現代社会、法制度、実現可能な科学などに配慮した実効性の高い研究成果を創出することができる。



廃棄物管理研究の着眼点となるニーズとシーズの分布

研究推進体制



主な研究内容

所長は、廃棄物管理研究所全体の総括、地域社会との共生の観点から研究内容の精査を行う。

1. 排出部門

- ・オリジナルの廃棄物減量化、再利用、再資源化のコア技術の開発
- ・一般廃棄物の減量化と有料化に関する法律、政策、地域での実状などの調査

2. 運搬部門

- ・全国の収集運搬システムの調査と収集運搬モデルの最適設計
- ・収集運搬車両性能と運用モデル、最適設計と最適運用
- ・会津若松方式などの優れた地域実践例の調査と応用実証試験



3. 処理処分部門

- ・最終処分された廃棄物の再利用、再資源化の事例、法律、政策などの調査
- ・中間処理施設、最終処分場における新技術導入に伴う、周辺住民との調整に関する制度設計
- ・管理型処分場の低環境負荷運転に関する調査
- ・最終処分場でのメタンガスの発生メカニズムと利活用に関する調査、実証試験

4. 統合管理部門

- ・不確実性を考慮した生産物流－廃棄のシステムの最適設計
- ・モバイルeビジネスとしての産業廃棄物管理システムの設計開発
- ・一般廃棄物の減量化と有料化の調査研究と管理システムの設計開発
- ・排出者、運搬者、処理処分者をモデリングしたシステムシミュレーション解析

